

指導のポイント

- ねらいとする価値に触れるまでの主人公の思考の流れを明確にしたり、順序を示すような順接的な板書にしたりすることが大切です。
- 場面絵や挿絵と文を関連させて書いたり、文字を強調したりして、板書の構成を生徒が興味をもてるように視覚的に工夫することが大切です。

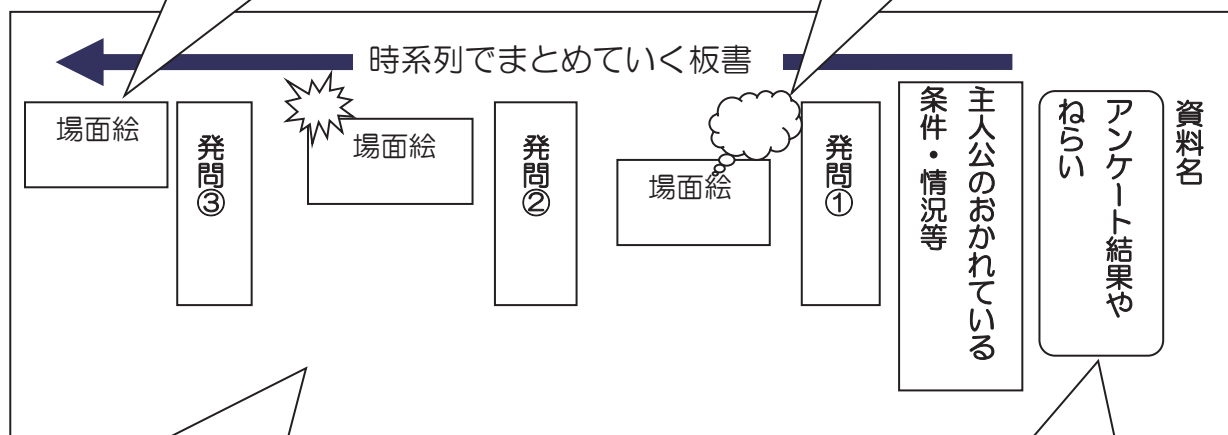
具体的事例

思考の流れや順序を示す順接的な板書例

思考の流れや順序を示します。

場面絵を利用して、みんなで話し合う順番が、目で見分かるようにします。

キーワードなども書いておくと、生徒の思考を深める手助けとなります。



「心のシーソー」等、心の様子が見える工夫をすることで生徒一人一人の心の内が読み取れます。

アンケート結果や本時の学習のねらいを明確にし、板書の中に短い言葉で提示することも効果的です。



Point

- 順番にまとめていくので、生徒にとって分かりやすい板書になります。
- 生徒から出された発言は全て板書するのではなく、主だった意見をまとめましょう。キーワードだけでもよいでしょう。

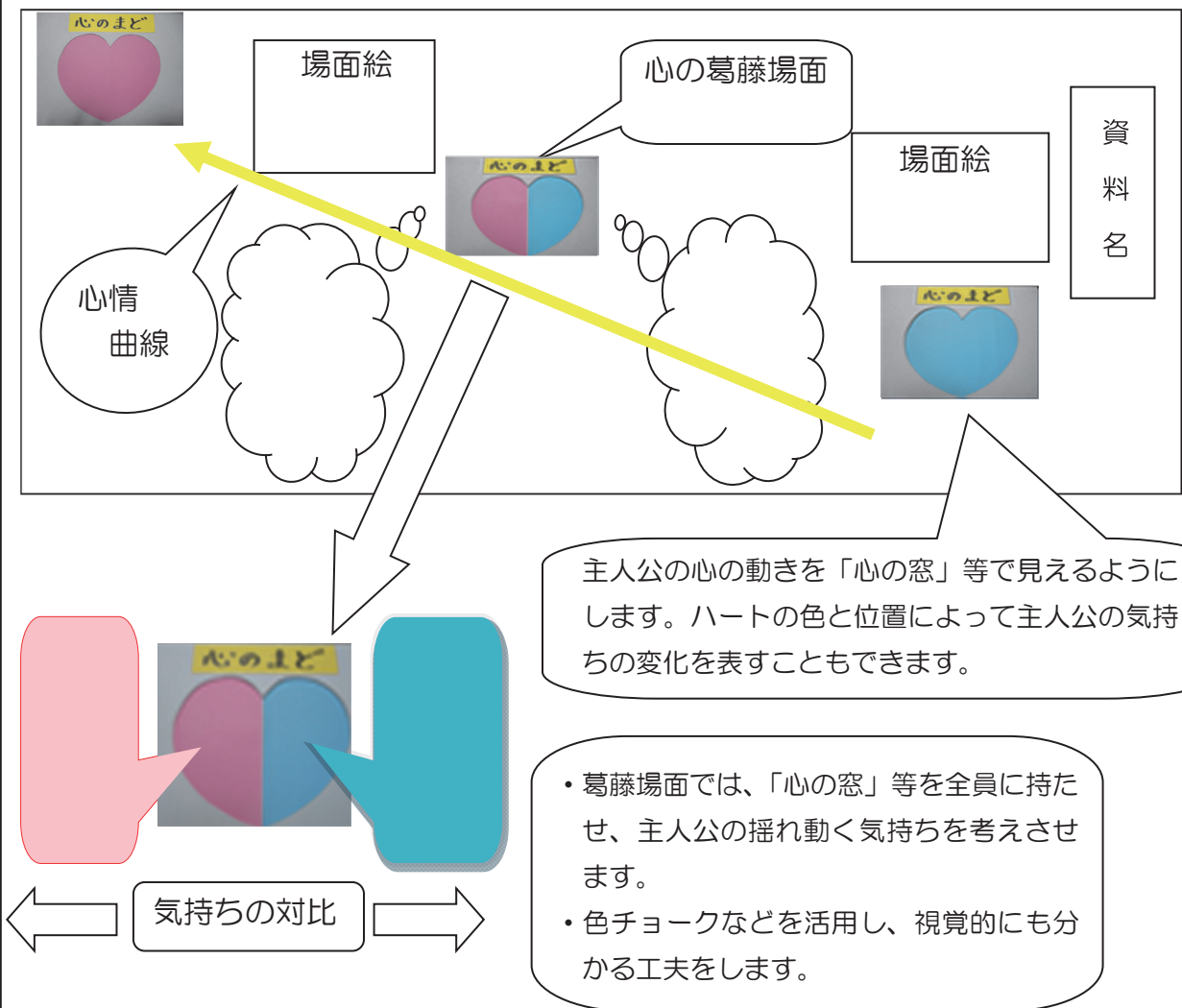
登場人物、条件・状況について、板書を生かして確認しましょう。



場面絵やキーワード等を効果的に活用しましょう。



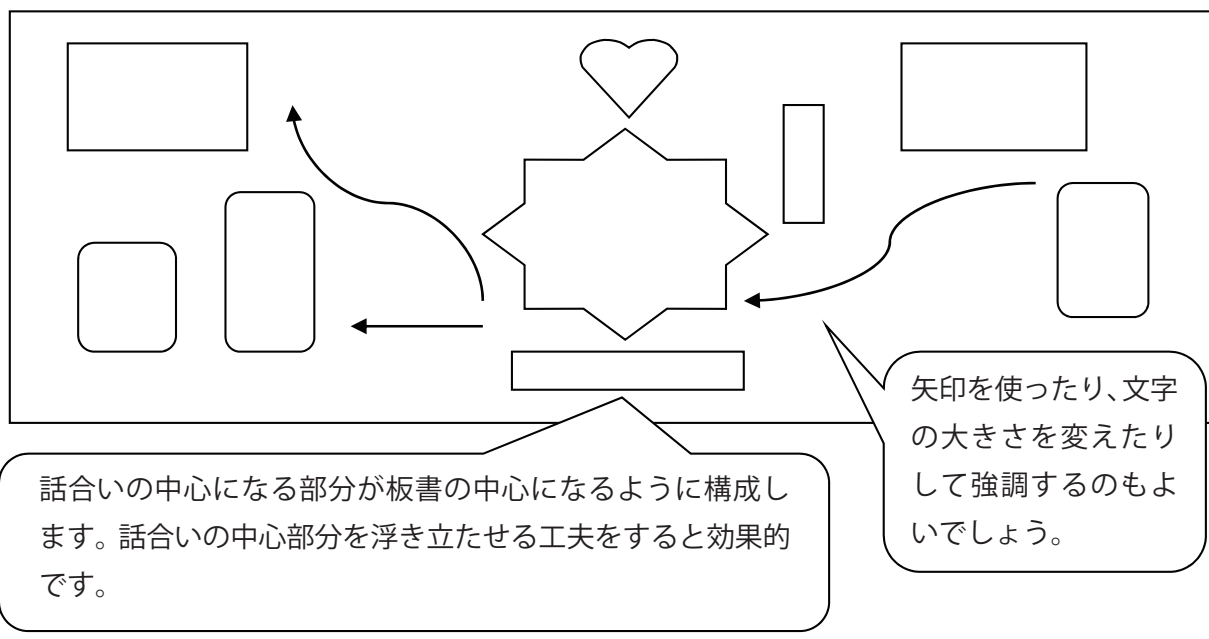
違いを対比的に示す工夫



Point

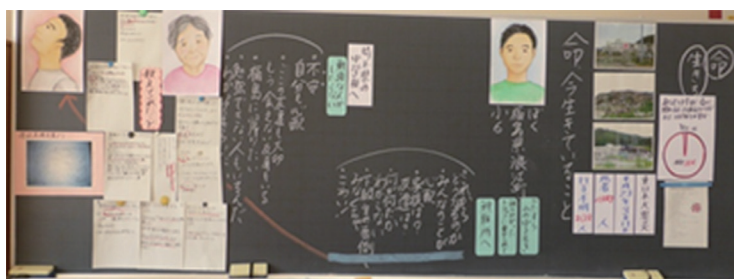
- 意見の違いが捉えやすいように、考え方のタイプで分けたり、内容によっては、黒板を上下や左右に分けて対比させたりする等の工夫をすると効果的です。
- チョークの色分けや場面絵や顔絵、吹き出しの形や色を変える等の工夫をすると、視覚的に心情変化を捉えやすくなります。

中心の見える構造的な板書例



留 意 点

- 授業が終了したときに授業のねらいが一目で分かり、生徒たち一人一人が、本時の学習を振り返ることができるように十分な板書計画を立て、授業に臨むことが大切です。
- 生徒から出された発言を精選し、多様な価値観を出し合わせながら、整理してまとめていきましょう。板書をする際は、生徒の発言を何より大切にする姿勢をもつことも重要です。そのことが、生徒が主体的に参加しているという意識をもたせることにつながります。
- 必要に応じてチョークの色を変える、書く位置を変えるなど、発問毎のまとめ方にもメリハリをつけながら、心の動きを見えるようにしましょう。
- 「彩の国の道徳」の場面絵は、埼玉県 HP から印刷して使用することができます。



写真や登場人物の絵、色チョークなどを活用してみましょう。



場面絵を貼る位置を工夫してみましょう。

